

平成26年度 五泉市総合学習部 活動報告

部長 小出 秀彌

1 研究主題

ふるさと五泉（橋田地区）のよさを伝えよう

2 研究の概要

五泉市はその名の通り、豊かで清らかな水に恵まれた泉の里です。清らかな水が流れているが故にホタルの生育地もたいへん多くあります。また、キウイフルーツは県内一の生産量を誇り、そのおいしさもたいへん好評を得ております。この両方をもちあわせた五泉市橋田地区のすばらしさを子どもたちが心の底から感じ、多くの人に伝えるにはどうしたらよいのでしょうか。この効果的な方法を講師先生からご指導いただき、そして、授業を通して探ります。

3 研究の実際

(1) 講話～地域のよさを発信する総合学習の手法～



講師は、阿賀町立鹿瀬小学校の小野裕子教頭先生です。教諭時代、多くの実践を行ってきた研究者でもあります。

まず、課題の設定です。地域のよさを実感させるには、力のある学習素材であることが必須です。力のある学習素材とは①繰り返してかかわれるもの②活動に広まりや深まりが出るものと考えます。例えば、「栽培」と「体験」が同時にできたりする、いわゆる「直接体験」のできるものがより理想的です。問題意識は活動の中から生まれます。活動の中で、疑問を書かせ、テーマへと高めていくことが重要です。このとき、児童の思考の可視化を図る

とよいでしょう。

次に情報の収集と蓄積です。表に「観察カード」と裏に「様子や顔の写真」をセットにしたポートフォリオを使用しました。そうすると「記憶」が残ります。また、情報源は活字に限定しました。ネットは広がりすぎます。活字は情報の基礎と考えるからです。

次は情報の咀嚼（整理と分析）です。学習ボランティアやゲスト T の位置付けとその役割を教師側が明確にしておくことも大切です。加茂小では、加茂農林高校の生徒がサポーターとして小学生に T・T 的につき、難しい情報をガイドしてくれました。

最後に発信（まとめ・表現）です。まとめは、方法や広さなどを限定することが大切です。「わかったこと」から「考えたこと」へと深めることが大切です。つまり考察させることで力を付けていきます。このことは評価者としても重要です。

(2) 「橋田のよさを伝えよう」で公開授業

10月には、橋田小学校3年酒井学級において、「橋田のよさを伝えよう」をテーマにした公開授業研修を行いました。

授業者は、ある程度、調べ学習が終わり、10月の発表会に向かって、さあこれからどうすべきかかと悩んでいました。そこで、今後の展開を部員全員で考えました。

授業は、「ホタルのクイズ、映像を使って説明」「キウイの成長に関する劇とクイズ」等5グループが発表し、各グループの発表の仕方でも優れた点と改善点を述べ合うものでした。友達同士お互いに発表の仕方のよさを見つけていました。また、「もっとこうすれば・・・」という見方もできました。発表の仕方にはかなり自信を付けていました。ただ、「本当にすばらしいんだよ！」という子どもたちの情熱が不足していました。

これは、相手意識のもたせ方、グループ編成の仕方に課題があるということに結論が及びました。また、一人一人をより活躍させるためにはワークショップ形態がよいのではという意見も出ました。



4 成果と課題

総合学習を展開する上で重要なことは、学習素材に繰り返してかかわれること、特に地域学習ではそのことが大事になること、また、地域学習を進めていくには、本来のねらいに立ち返り、郷土を愛する心が育つように活動を方向付けることが必要になってくることを再確認しました。